

第十回企業活性化研究分科会・議事録

<第十回 2008年4月26日(土) 時間：13：30～16：30 於：専修大学(神田校舎)>

1. 参加者：太田、山本、井端、大野、木村、古山、渡邊、大柳、横山、星野、菅原、
宮川、齋藤

2. テーマ：企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ：『継続企業の前提の注記規準に関する分析』

・報告者：大柳 康司(専修大学)

・配布資料：レジュメ3枚、分析資料(資料1から資料8)

参考資料3枚(トーマツリサーチセンター調査資料)

・報告内容の要旨

本報告では、継続企業の前提の注記が付されている企業をサンプルとし、監査人がどのような場合に注記を付すのか、また注記が付されている企業にはどのような兆候がみられるのかを分析することを目的としている。まず公認会計士協会・監査委員会報告、財務諸表等規則・ガイドライン、監査基準別の継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象または状況について説明された。次にトーマツリサーチセンターが調査した平成17年3月期の注記状況をもとに継続企業の前提の注記が付されている企業の現状を把握した。最後に、統計的手法を用い継続企業の前提の注記規準の分析を行っている。サンプルの選定においてペアサンプルを作成し、それをもとに一元配置分散分析および判別関数分析を行った。分析結果から、継続企業の前提に注記が付されている企業には、制度導入期以前より業績が悪く注記が付された企業と、何らかの要因で急激な業績が悪化し注記が付された企業の2種類のタイプに分別できると報告された。

➤継続企業の前提に関する注記の概略について

➤継続企業の前提に関する注記状況について

➤継続企業の前提の注記規準の分析について

4. その他

次回の日程

6月21日(土) 専修大学神田校舎 782教室 午後1：30から

・井上先生の講演

・井端スクール第三回

(文責：宮川宏)